

# ぐんま食の安全情報

## Vol.95

ぐんま食の安全情報は、食の安全に関する情報を食の安全情報通信員の皆さんを通じてお届けする情報紙です。

2013年4月発行  
編集発行  
群馬県食品安全局食品安全課

### 情報No. 95 私たちの暮らしとBSEの関わりについて

日本では、平成25年4月から30か月齢以下の牛はBSE検査の対象外になりました。しかし、実際には消費者の不安を取り除くため、各自治体は全ての牛のBSE検査を継続しています。一方、2月に規制が緩和された輸入牛肉については、BSE検査を行わない30か月齢以下のものが輸入され、すでに店頭に並んでいます。そこで今回は、国内及び海外のBSE対策について取り上げます。

#### BS (牛海綿状脳症) とは？

BSEとは牛の病気のひとつで、脳の組織がスポンジ状になり、異常行動や運動失調などの症状が出て死亡します。



動物の体の中にあるタンパク質の一種「プリオン」が異常化し、牛の脳やせき髄に蓄積することが原因と考えられています。また、ヒトはBSEの異常プリオンタンパク質を食べることで、変異型クロイツフェルト・ヤコブ病になる可能性があります。

92号のおさらい



#### 規制緩和の基となった評価について

#### 考慮したこと

5か国とも、飼料規制が実施され、2004年9月以降に生まれた牛からはBSE感染牛が確認されていない。また、食肉処理工程で、異常プリオンが蓄積する特定危険部位の除去等の危険性低減措置を実施。



アメリカ カナダ フランス オランダ 日本

今回は5か国の評価を行いました。



このほか、「種の壁」という動物ごとにBSEのうつりやすさには差があることや、感染実験結果なども踏まえて判断されました。

#### 再評価結果...

規制の境目を20か月齢から30か月齢と変更しても、変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(BSEの人間版)を発症することは考え難い。

#### つまり

今回の規制緩和を実施しても、ヒトへの健康影響は無視できる程度に小さいと評価されました。

食品安全委員会 (日本)

#### 世界のBSE発生件数の推移

37,316頭 (1992年)



12頭 (2012年)

ピーク時から激減!

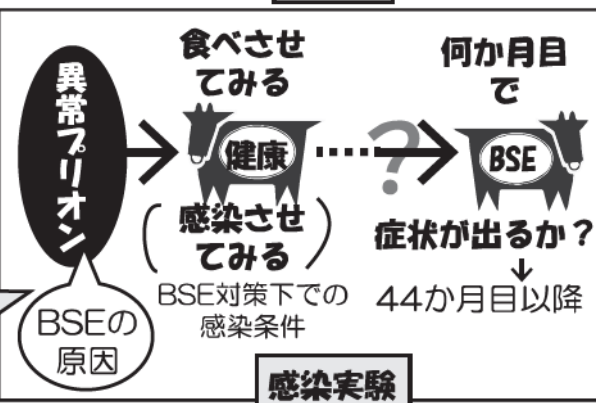


評価した5か国のBSE対策は、異なる点もありますが、日本国内での牛肉の検査対象の見直しと、アメリカ・カナダ・フランス・オランダからの輸入牛肉の規制緩和の根拠は、基本的に同じです。



店頭を見ると、アメリカ産牛肉だけが規制緩和されたような感じがしますね。

「感染実験」の一部を紹介します。



## こう変わった！輸入できる牛肉


これまで



**20か月齢以下**

アメリカ カナダ

平成25年2月1日から

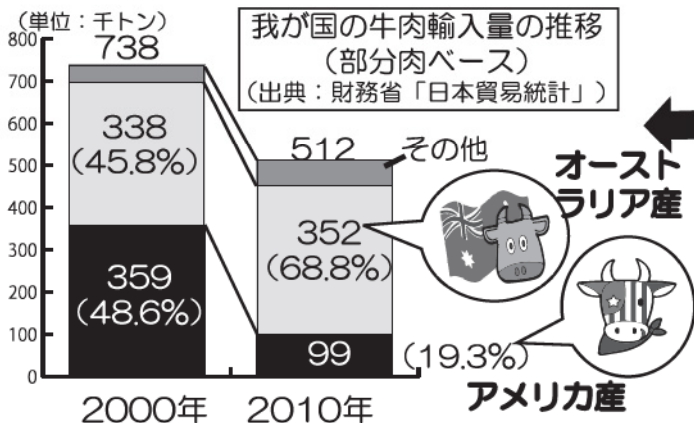


**30か月齢以下**

アメリカ カナダ

輸入規制を見直し、フランス・オランダも緩和されました。

アメリカ産牛肉は、20か月齢前後のものが一般的です。規制が見直されて、輸入対象の牛が増えました。



2000年(平成12年)当時、輸入牛肉は、オーストラリア産とアメリカ産とで9割以上を占めていました。その後、アメリカ産などの牛肉が輸入制限されたため、オーストラリア産牛肉の輸入割合が多くなっています。

ほかの国からの輸入量が少ないからアメリカ産の牛肉だけが緩和されたような感じがしたんですね。



## 日本は清浄国に

日本が、BSEの発生状況によって欧米からの牛肉の輸入規制を行ったのと同様に、日本は外国へ国産牛肉を輸出する際に規制を受けていました。これは、OIE(国際獣疫事務局)が管理しているBSEステータス(BSEリスクの程度に応じて段階的に分類したもの)と二国間の貿易条件によるものです。日本は、平成14年2月以降に生まれた牛からBSE感染牛が発生していないため、平成25年2月にBSEステータスの一番上のランクの要件を満たしました。早ければ、5月のOIE総会で「清浄国」として認められる見通しです。

OIEとは?

1924年に発足した世界の動物衛生の向上を目的とする国際機関。2013年2月現在、178か国・地域が加盟し、BSEなどに関する国際基準を設置している。

## 群馬県の対応

ほかの自治体の動向、県内生産関係団体及び消費者団体の意見を踏まえ、4月以降も全月齢のBSE検査を実施することとしました。

ただし、国によるさらなる検査月齢の引き上げがなされた場合等には、BSEの全頭検査を見直しを検討することとします。

全頭検査=全ての牛を検査

現在日本では、食肉にする全ての牛の脳(延髄)についてBSE検査を実施しています。

先日開催した、BSEに関する意見交換会で、「全頭検査」の意味を「牛の頭全体を検査すること」「全ての牛を検査すること」のどちらが正しいか聞いたところ、牛の頭全体を検査することと回答がありました。正しくは、「全ての牛を検査」することです。

## OIE(国際獣疫事務局)におけるBSEステータスの分類

ステータス
<b>無視できるリスクの国</b> オーストラリア、ニュージーランド、デンマークなど
<b>管理されたリスクの国</b> <b>日本</b> 、米国、カナダ、フランス、オランダなど
<b>不明のリスクの国</b>

ランクアップ!

5月予定

オメデトー



全頭検査



牛の頭全体を検査

お知らせ

不定期発行について、御理解と御協力ありがとうございます。次回は1ヶ月お休みして、6月発行予定です。



御意見・御感想  
お問い合わせは  
こちらへ

〒371-8570 前橋市大手町1-1-1 県庁食品安全課  
TEL: 027-226-2423 FAX: 027-221-3292  
電子メール: shokuanze@pref.gunma.lg.jp